

## 事業報告

### I. 全体概要

令和5年度の経常収益額（事業収益、受取会費、受取委託料、補助金等の合計）は84,499千円、経常費用額（事業費、管理費の合計）は86,114千円となり、当期経常増減額（経常収益額－経常費用額）は1,615千円の赤字となった。

このうち、種苗販売の収益となる事業収益については、公益事業関係では、かんしょ、ピーマン、台木、スイートピー等の6品目が前年度実績より増収し、にがうり、デルフィウム等の3品目が減収するとともに、収益事業では、アグリシート委託苗、種子球根とも増収した。

その結果、全体の事業収益額は56,929千円となり、前年度実績より4,921千円の増収となり、金額ベースで、当初予算比87%、前年度実績比109%となった。

次に、種苗生産・販売のコストとなる事業費は、原材料費、資材費、修繕費、租税公課等が増額したものの、賃金、燃料費、光熱水費、技術開発費、雑費等が減額した。

その結果、全体の事業費は78,364千円となり、前年度実績より618千円の減額となり、金額ベースで、当初予算比103%、前年度実績比99%となった。

### II. 業務別事業実績

#### 1. 管理運営に関する事業

##### 1) 総会

第61回定時総会及び2回の臨時総会を開催し、上程した議案は全て原案どおり承認された。

[総会の開催]

総会	開催日	場所	議案事項
第61回定時総会	令和5年 6月22日	JAビル 501研修室	1. 令和4年度事業報告、貸借対照表等について 監査報告
第1回臨時総会	令和5年 7月26日	—	1. 役員の前辞任に伴う後任者の選任について
第2回臨時総会	令和6年 3月21日	JAビル 501研修室	1. 令和5年度会費及び納入方法(案)について

##### 2) 理事会

3回開催し、総会附議事項等について審議し、附議した議案は全て原案どおり承認された。

[理事会の開催]

理事会	開催日	場所	議案事項
第1回理事会	令和5年 6月5日	JAビル 501研修室	1. 令和4年度事業報告、貸借対照表等について 2. 種苗供給価格の改定について 3. 第61回定時総会の開催(案)について
第2回理事会	令和5年 7月10日	—	1. 役員の前辞任に伴う後任者の選任について(別表1) 2. 第1回臨時総会の開催について
第3回理事会	令和6年 2月22日	JAビル 501研修室	1. 令和5年度収支予算の補正について 2. 令和6年度事業計画及び収支予算について 4. 令和6年度の会費及び納入方について 5. 令和6年度借入限度額について 6. 令和5年度第2回臨時総会の開催について

##### 2) 企画運営委員会

理事会に先立ち、2回開催し、理事会附議事項及び報告事項等について協議した。

[運営委員会の開催]

理事会	開催日	場所	協議事項
第1回	令和5年	県総合農試	1. 令和3年度事業報告、貸借対照表等について

運営委員会	5月16日	研修棟	
第2回 運営委員会	令和6年 2月7日	県総合農試 大会議室	1. 令和5年度収支予算の補正について 2. 令和6年度事業計画及び収支予算について 3. 令和6年度の会費及び納入方法について 4. 令和6年度借入限度額について

#### 4) 監査

定例の棚卸監査及び帳簿監査が行われた。

監査名	開催日	備考
棚卸監査	令和6年4月1日	令和5年度期末棚卸監査
帳簿監査	令和6年4月26日	令和5年度期末帳簿監査

## 2. 種苗生産・供給事業

### 1) 園芸作物の優良種苗の生産及び安定供給

#### (1) 宮崎県が育成したオリジナル品種の種苗供給

宮崎県総合農業試験場等で育成された野菜・花きの品種等について、宮崎県から許諾を受け、種子の生産及び供給を行った。

##### ① かぼちゃ

黒皮かぼちゃの「宮崎早生1号」等の2品種について、43袋(600粒/袋)を供給し、供給金額は20万4千円であった。生産が減少しており、供給金額ベースで、当初計画比86%、前年度実績比83%となった。

##### ② にがうり

「宮崎つやみどり」等の4品種について、995袋(100粒/袋)を供給し、供給金額は471万2千円で、需要の減少により、供給金額ベースで、当初計画比107%、前年度実績比92%となった。

##### ③ ピーマン台木

ピーマン台木は県内外に供給し、供給量も年々増加している品目で、「みやざき台木5号」等の4品種について、1,024袋(1,000粒/袋)を供給し、供給金額は775万円で、供給金額ベースで、当初計画比138%、前年度実績比143%と大幅に増収した。

##### ④ スイートピー

5つの新品種の供給を開始し、「恋かすみ(試交25号)」等の12品種について、131袋(800粒/袋)を供給し、供給金額は108万7千円で、需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比142%、前年度実績比では442%と大幅に増収した。

##### ⑤ デルフィウム

「ペガサス」等の7品種について、126袋(1,000粒/袋)を供給し、供給金額は168万円で、供給金額ベースで、当初計画比101%、前年度実績比87%となった。

#### (2) 栄養繁殖作物の茎頂培養苗の供給

かんしょ、いちご、らっきょう、ナンキョウスの茎頂培養苗を生産・供給した。

##### ① かんしょ

令和4年度の「べにはるか」の徒長苗事故の再発防止策として、ハイセンター供給のかんしょ苗

(全品種)を、現地圃場(都城市)で試作し、生育及びいもの品質等について、徒長生育等の、異常がないことを確認した。

かんしょは、「宮崎紅」、「コガネカン」等の7品種の挿苗及びポット苗の生産し、「べにはるか」の徒長苗事故の補償苗(8万1千本)を除き、全体供給数は121万4千本(当初計画比84%、前年度実績比101%)で、供給金額は3,107万6千円(当初計画比84%、前年度実績比99%)となった。

また、新たに、基腐病に耐性のある加工用品種の「みちしづく」を挿し苗で、6千本生産・出荷した。

苗別では、挿苗では、供給数は117万8千本で、供給金額は2,744万1千円と、前年度実績とほぼ同程度、ポット苗では、供給数は3万5千鉢、供給金額は363万5千円となり、前年度実績より増収した。

品種別では、「宮崎紅」については、丸いも系の「宮崎紅(A-3)」から他品種への転換が進み、供給数は当初計画比82%、前年度実績比89%となった。また、「コガネカン」については、育苗工程の遅れ等により、供給数は当初計画比89%、前年度実績比100%となった。さらに、「べにはるか」については、生産は増加したが、補償苗の供給に充てた関係で、供給数は当初計画81%、前年度実績比85%となった。

## ② いちご

「さがほのか」等の2品種について、7,885鉢を供給し、供給金額は319万1千円であり、需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比135%、前年度実績比123%と増収した。

## ③ らっきょう

「らくだ」の種球について2,542kgを供給し、供給金額は153万8千円であり、需要の増加により、供給金額ベースで、当初計画比121%、前年度実績比114%となった。

## ④ ナンキュラス

「ローズクォーツ」等の15品種の培養苗及びかぎ芽苗について、3,014本(セル苗)を供給し、供給実績額は73万7千円で、需要の減少により、供給金額ベースで、当初計画比94%、前年度実績比139%となった。

## (3) 優良種苗供給体制整備事業

優良種苗の安定生産技術の確立に向けた試験・実証等について、5品目で実施した。

### ① かんしょ苗の安定生産技術の確立

ポット苗育苗に適する用土については3種類の用土を供試したが、生育の有意差はなく、ポットの規格としては7.5cm及び9cmが有効であると思われた。

また、コジラミ防除薬剤の効果確認では6剤を供試し、コト顆粒水和剤の効果が高いことが確認されたが、防除時期についてはほぼ同程度の効果であり、継続試験を行う。

さらに、省力的な採苗方法とされる一斉採苗は、採苗時間は短縮でき、効率的な方法であるが、採苗数が少なく、採苗方法は基本的に選択採苗を行い、一斉採苗を補完技術として組み合わせることで方法が有効であると思われた。

### ② ピーマン台木の採種技術の確立

かん水量を制限する栽培では生育を抑制する効果が期待でき、採種量も増加したことから、ピーマン台木栽培のかん水方法としては有効であることが確認できた。

また、省力的な栽培方法と期待されるバツ栽培において、3種の床土を供試したが、生育及び採種量が良好で、安価なアグリ野菜8号が有望と思われた。

さらに、「台ひなた」における交配方法としては、雌花上で雄花を振動させる方法の有効性が確認された。

③ デルフィニウムの採種技術の確立

総合農試育成の有望系統の1系統について、採種量、種子のA品率及び発芽率を調査した結果、採種量は「ペガサス」の3割程度で、A品率及び発芽率とも「ペガサス」より低い結果となった。また、本系統は側枝での採種が良く、採種する場合、側枝をメインにした採種を検討する必要があると思われた。

④ ランキュラスの優良種苗の安定生産技術の確立

培養苗の仕育苗において、3種の用土を供試し、MKK園芸5号及びMKK仕用10号が適していると思われた。

また、培養瓶から苗の鉢上げ段階における照度条件を検討するため、蛍光灯及び白色LEDを組み合わせて育苗した結果、蛍光灯単独より蛍光灯＋白色LEDによる照明が生育及び作業性から有望であることが確認されるとともに、照度は7,000lux程度が良好であった。

さらに、堀上時における球根の洗浄方法としては、球根の自然乾燥＋コンプレッサー＋ブラシによる土除去が作業時間が短縮できるが、土除去効果が低く、流水による土除去を入れた方法は土除去効果が高く、球根へのダメージも少ないが、作業時間の大幅な低減は認められなかった。

⑤ スイートピー「紅式部」の採種技術の確立

採種量の増加が期待されるポット栽培において、3種の用土を供試し、定植2ヶ月後ではアグリ8号の生育が良好であることが確認できた。

(4) 優良系統・品種の親株保存管理

県育成品種で、現在普及中の品種・系統及び遺伝資源としての利用の可能性のある品種・系統を将来の活用に備え、保存・管理しており、野菜2品目4品種、いも類1品目5品種、花き4品目32品種の優良親株の保存管理を行った。

[優良親株の保存管理]

作目	品目	品種	導入先	導入年	保存形態
野菜類	いちご	とよのか	宮崎市	平成5年	フラスコ苗
		みやざきなつはるか	県総合農試	平成25年	
		こいはるか		平成29年	
	らっきょう	らくだ	都城市	平成2年	
		らくだ		平成5年	
いも類	かんしょ	宮崎紅(A-3)	県総合農試	平成18年	フラスコ苗
		宮崎紅(0-61)		平成24年	
		コガネセンカン	県総合農試	平成24年	
		ムラサキマサリ		平成25年	
		コガネマサリ		平成26年	
		タマアカネ		平成27年	
花き類	デルフィニウム	AS(ペガ親)	綾町	平成18年	フラスコ苗
	ランキュラス	ガーネット		平成18年	
		ラスベリル		平成20年	
		ローズクォーツ		平成21年	
		サンキュラス・オレンジ、サンキュラス・ホワイト、サンキュラス・シュガー、サンキュラス・パールピンク		平成22年	
		フェアン、ちほの詩		平成27年	

		オレンジ・シャルロット、キテイラ、 ティニュー、ホムロール		平成 29 年	
		サンキュラス・ピコアホワイト、モロッコ赤①、モロッコハーフル①、 モロッコ白ピンク②	県総合農試	令和 4 年	
		モロッコ白ピンク①、モロッコ赤②、 モロッコ茶オレンジ、モロッコ黄、 モロッコ白①、モロッコ白②、 モロッコクリーム		令和 5 年	
	耐暑性りんどう	M1-19、M2-8、M2-16			
	スプレーカーネーション	ローロ	綾町	平成 19 年	鉢苗(親株)
		ローロレット、ローロピンク	県総合農試		

(注) 保存株は令和 6 年 3 月 31 日時点で、保存しているものを示す。

## 2) 野菜苗の受託育苗及び花きの球根生産(収益事業)

ハウス施設の有効利用等を図るため、7月～10月主体に、野菜苗(ピーマン、なす、きゅうり)の中間育苗をジェイエイ・アグリシード(株)から受託して、中間育苗を行い、受託本数は6万9千本、受託金額は387万1千円で、受託金額ベースで、当初計画比78%、前年度実績比116%となった。

次に、花きの球根生産では、サンキュラスのPONPONシリーズの球根について、4,200球を生産・供給し、実績金額は988千円で、当初計画比105%、前年度実績比140%の増収となった。

### (別表-1)

役員辞任に伴う後任者の選任について

#### 1. 内容

##### 1) 理事

現職 (令和4年6月定時総会から令和5年7月臨時総会まで)		備考	改選(案) (令和5年7月臨時総会から令和6年6月定時総会まで)	
氏名	勤務先役職名		氏名	勤務先役職名
栗原 俊朗	JA宮崎中央代表理事組合長		有田 秀明	JA宮崎中央代表理事組合長

##### 2) 監事

現職 (令和4年6月定時総会から令和5年7月臨時総会まで)		備考	改選(案) (令和5年7月臨時総会から令和6年6月定時総会まで)	
氏名	勤務先役職名		氏名	勤務先役職名
和田 利男	JA宮崎経済連常勤監事		田丸 浩	JA宮崎経済連常勤監事